当院の検査室外業務の取り組みとその評価

◎飯ヶ谷 奈央子[1)]、柴田 昭浩[1)]
医療法人 養生会 かしま病院[1)]

【はじめに】当院では2005年から病棟検査業務を実施しており、2018年4月から新たに病棟担当制を導入した。これらの取り組みについて、病棟看護師からの評価を報告する。
【検査室外業務の配置】病棟検査技師：2名（1名は検査室業務と兼任）、病棟担当制：生理・検体・病理の3部門から3名1組で4病棟を担当、計12名。病棟担当制は、検査科全員が参加し検査科内意識の統一を図ることを目的として開始しており、各病棟のミーティング参加・検査物品管理・検査情報提供・病棟勉強会などを行っている。更に2019年4月から外来に2名、透析室に1名を配置した。また、在宅では2018年10月から生理機能検査担当者が心電図・超音波などを行っている。
【アンケート結果】臨床検査技師が行う病棟業務への理解や連携・協働についての現状評価を、病棟看護師を対象に実施した。

・検査科は看護師に協力的である。
・看護師業務が軽減されインシデント発生の要因軽減にも繋がっている。
・検体の採取法、取り扱い、検査内容の説明など不安要素を解決してくれるのでヒヤリハットなどの医療事故が未然に防げる。

以上のように概ね良好な評価であったが、病棟担当制を導入して1年経過したにも関わらず、担当技師が認識されていないといった現状も見受けられた。
【まとめ】今回の結果から、検査室外業務を行うには、その場に関わるスタッフ等に検査技師が必要とされることと、特に医療安全が求められていることを強く認識した。当院の医療安全報告によると、看護師の医療事故報告件数は転倒・転落、薬剤に次いで検査関連があげられている。病棟担当制導入の前後で報告件数に明らかな変化はないが、報告されていない水面下での医療事故を防げていると考えられる。当院の医師からも検査室外業務に一層の介入が望まれている。その期待に沿えられるよう、今回の評価を参考に問題を可視化し、検査室外業務に検査科全員で積極的に取り組んでいきたい。

連絡先　0246-58-8010